

医師として広島県を  
“えっと”楽しむマガジン

#004

2015 Spring

【えっと】

広島県

# ETTO

医師として広島県を  
“えっと”楽しむマガジン

ETTO

【えっと】

1 ネット 1

2015 Spring

#004

広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)



陸  
Land



空  
Air

特集

陸・空・海で活躍する移動医療最前線  
～安心な暮らしづくりのために～



海  
Sea

広島県地域医療支援センター  
(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

が発行する医療広報誌「ETTO」は、  
医学生や研修医、若手医師へ広島県  
の医療をPRしています。今号では、  
バスで、船で、ヘリコプターで、陸海空  
から限無く地域医療をサポートする  
取り組みを取材しました。

## 広島で臨床研修をしませんか



広島県には25の臨床研修病院があり、環境も病院規模も様々です。  
多彩な臨床研修病院が提供するプログラムは、  
必ずやあなたのニーズにマッチした研修を提供してくれることでしょう。



### 多彩な医師ネットワーク



広島県内の初期研修医による勉強会「Hiroshima Green Summit」や若手医師への医療機関横断的な研修支援などを行い、やりがいを持って活躍できる環境整備を進めており、多彩なネットワークが豊富です。

### レジナビフェア 福岡・大阪・東京への出展



広島県では、県内で初期臨床研修を行っていただける医師を増やす取り組みに力を入れています。県内の臨床研修病院が共同で、合同説明会「レジナビフェア」に出展しています。お揃いの真っ赤なベストを着て、お待ちしております。

### 女性医師の活躍支援



子育てと仕事を両立しやすい職場環境づくりや復職研修支援・子育てサポートなど、県内で活躍する女性医師が活躍できるように、様々な支援を行っています。

### 暮らしやすく楽しめる広島

広島県は、「日本の縮図」といわれているように、経済・社会・文化・商業・工業の様々な要素をもち、「都市」としての機能を有しながら、「自然(海・山)」も豊富。最近ではサイクリストの聖地として「しまなみ海道」に来る方も増えています。さらに全国・県内移動のアクセスに優れているのも特徴。どんな人にも住みやすく、自分らしく自由に暮らすことができる、贅沢な地なのです。



広島県地域医療支援センターは、広島県・県内全市町・広島県医師会・広島大学が協働し、広島県の地域医療の確保等のため、平成23年7月に設置された公的団体です。

わたしたちは、広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在解消のための配置調整や医師確保、人材育成等に総合的に取り組んでいます。

医師の立場からの助言ができるよう、自治医科大学出身の内科医師も勤務しており、みなさまのご相談やご希望を伺っています。



### 地域医療への扉

## ふるさとドクターネット広島

広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

<http://www.dn-hiroshima.jp>



【お問い合わせ】広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)  
〒734-0007 広島市南区皆実町一丁目 6-29 電話：082-256-2011 FAX：082-256-2026  
E-Mail：iryu@hiroshima-hm.or.jp



「ドクターヘリは、医師が現場にできるだけ早く到着するための移動手段です。自分しか医師がいない場所で、いかに確かな判断ができるかという現場に毎回向き合っています。また、患者さんとチームのために冷静さを保って対処する先輩たちの背中を見ることがで

きるのは貴重な経験です」と、ドクターヘリのOJTを希望した田邊先生。数ヶ月経った今、経験が浅くとも必ず現場で患者さんが待っているというやりがいや、同乗するフライトドクターの現場における冷静な判断力・精神力にも魅了されているという。



県という枠を越え、  
空から命と安心を守る



「麻酔集中治療科では全身状態の維持に集中しますが、診断する能力をつけたくて未知の世界だった救急医学の世界へ。また、通常は基地病院にヘリポートがあり勤務医が出動しますが、広島では病院外にヘリポートがあり、学生や研修医の見学や研修を受け入れている体制でした」(田邊)

「重症という意味では救命救急センターと同じですが、ドクターヘリは緊急性が高い。さらに、消防との連携、搬送先の医師との連絡、ヘリコプターで移動するという特異な環境…。行かないと状況が把握しづらいケースも多く、チームはもちろん医療従事者全体での連携が重要です」と、今日のフライトドクター・大谷先生。広島は、ヘリコプターが降りることのできない島の海岸など、複雑な地形に加えて雪が降る日も多く、ヘリコプターから医師しか降りることのできない状況において一人で救命に当たることもあるという。

## Doctor Heli ドクターヘリと 出動チーム

2013年より運行を開始した「ドクターヘリ」。広域医療連携に力を入れる中国地方の中でも、中山間地域や瀬戸内海の島々など、様々な地勢と天候を持つ広島でフライトドクターたちを訪ねた。

機長、整備士、医師(フライトドクター・研修医)、看護師(フライトナース)と医療スタッフ、計4~5人が出動。現場に急行しながら、情報を共有したり、治療法を相談する。



大谷直嗣先生

広島県出身。広島大学医学部卒業。広島大学病院、広島市民病院、中国労災病院を経て、広島大学病院救急科勤務兼フライトドクター。「仕事」とは、自分でよく考えて、人様のお役に立てるように頑張ること」がモットー。広島のおすすめスポットは、尾道と宮島、マツダスタジアム。



田邊優子先生

広島県出身。山口大学医学部卒業。広島市民病院での初期研修を経て、麻酔集中治療科へ。現在、広島大学病院の高度救命救急センターに所属し、ドクターヘリでのOJTを研修中。「どんな時でも前向きにがんばる」をモットーに、「広島といえば、マツダスタジアムでしょう!」と明るい笑顔がトレードマーク。

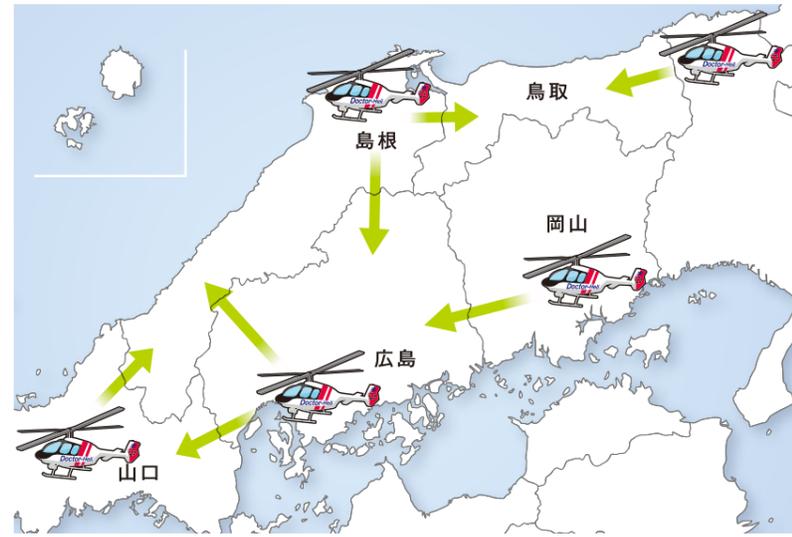




## Doctor Heli ドクターヘリと 出動チーム

「ドクターヘリで対処するのは、生命に関わる怪我や病气。急行した現場で容態を見極め、適切な処置をするという、空飛ぶERのようなものです。私たちは限られた医療資源で、全身を診るスペースリストでなければなりません」とは、長年、救急医療に携わる谷川先生。広島県の救急医療の基盤を確立し、広島県ドクターヘリ運行責任者でもある。

「患者さんを助けられるよう仕組みを作る必要があります」（谷川）  
広域医療連携に力を入れる中国地方はまとまりが良く、同チームも広島県という枠を越え、鳥根や山口、今後は愛媛への出動も行う予定だ。  
「行政の境目なく医療活動に専念できるのは、医者にとっても、患者さんにとってもいい環境です」（谷川）  
「患者さんの視点、大事にする谷川先生と同チームのマインドは研修中に



多くの中山間地域や島しょ部を抱える中国地方5県のドクターヘリ広域連携

瀬戸内海に暮らす県民の  
健康と安心を守る  
国内唯一の巡回診療船

# 瀬戸内海巡回診療船 済生丸

美しい海に、数多くの島々が浮かび、風光明媚な瀬戸内海。しかし、その多くの地域に診療所が無く、医療に恵まれない地域もあるのだ。そこで、広島、岡山、愛媛、香川の4県を診療船が巡回し、広島県では済生会広島病院・呉病院の医師スタッフが診療船に乗りこみ、13の島々、合計19か所の移動診療・検診を行う。

「済生丸には、もう何十年もお世話話になっている。ありがたい」と、沿岸部や島しょ部に住まう人々は、すでに半世紀にわたりこの診療船を利用してきた。診療だけでなく検診も行うため、住民にとって予防医療の面でも無くてはならない存在だ。  
船内へ入ってみると、そこはまるで陸上の病院さながらの設備が整っている。巡回診療開始以来の受診延べ人数56万669人(平成25年度累計)



迅速な発進と安全性を高める広島ヘリポート内のドクターヘリ運行管理事務所・格納庫

身につけたいことの一つだろう。「ドクターヘリでは研修中でも傍観者にはなりません。自ら動いて患者さんを救う経験を、噛み締めています」（田邊）  
「決して都会ではないけれど、科の垣根を越えて協力する広島チームとして働きやすい環境です。ここで積極的に学ぶ田邊先生は期待の若手」（大谷）  
「患者さんの訴えから何が優先されるべきなのかを迅速に、かつ系統的に判断する技能は早い時期から身につけておく必要がある。若い医師にとって一から患者さんを診るドクターヘリでの経験は、これからの長い医師人生に役立つでしょうね」（谷川）  
無事に患者さんを搬送した後、帰途のフライトでは眼下に広島島の海や山、街並が広がり、それは美しいのだという。「一人でも多くの患者さんを救いたい」という想いとともに、彼らは今日も空から地域を守っている。

島の人々が待つ港へ、一隻の船がやって来た。それは移動診療・検診を船で行い、半世紀以上活躍してきた診療船。今日は、海の上で行われる巡回診療に迫る。



県内13の島々、19か所を巡回中!

済生丸は、平成7年に発生した阪神・淡路大震災の際にも救援活動を実施。今後も災害に際しては、可能な限りの物的支援・人的支援をしています。

小佐木島・百島(泊・福田)・生野島・長島・三角島・大崎下島(沖友)・齋島・大芝島・塩谷(呉市)・倉橋島(大迫)・鹿島(上・下・中)・上蒲刈島(大浦・宮盛・向・田戸)・情島を巡回。

## 社会福祉法人恩賜財団 済生会

瀬戸内海巡回診療事業推進事務所  
〒700-8511 岡山県岡山市北区伊福町1丁目17番18号  
岡山済生会総合病院内  
TEL. 086-253-6071 FAX. 086-252-7375

診療ならびに関係機関  
岡山県済生会 岡山済生会総合病院  
広島県済生会 広島病院  
呉病院  
香川県済生会 香川県済生会病院  
愛媛県済生会 松山病院  
今治病院  
西条病院

瀬戸内海巡回診療船管理事務所  
〒761-8076 香川県高松市多肥上町1331番地1  
香川県済生会病院内  
TEL. 087-868-1551(病院代表) FAX. 087-868-9733

[http://www.okayamasaiseikai.or.jp/saiseimaru\\_cal/](http://www.okayamasaiseikai.or.jp/saiseimaru_cal/)

## 広島県ドクターヘリ

基地病院：広島大学病院  
協力病院：県立広島病院  
運航会社：中日本航空株式会社(愛知県西春日井郡)  
使用機体：EUROCOPTER EC135P2+

■ 広島大学病院特命広報・調査担当：082-257-5418  
■ 広島県健康福祉局医療政策課：082-513-3062

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/>



## 谷川 攻一 教授

福岡県北九州市出身。九州大学医学部卒業。米国にて救命救急を学び帰国後は救急医学に従事。現在、広島大学病院高度救命センター長。これまで行政とも連携し、ドクターヘリをはじめとする、広島や中国地方全体の救急医療の基盤形成に貢献している。





山崎祥子先生

広島県出身。島根大学医学部医学科卒業。広島大学病院にて初期研修を行い、広島大学第一内科に所属。現在、庄原赤十字病院にて後期臨床研修医2年目。



井上暢子先生

熊本県出身。広島大学医学部医学科卒業。現在、広島大学病院の初期臨床研修医2年目。今日は初めて移動診療車にて、山崎先生から研修を受ける。



県北部の無医地区で  
通院が困難な住民の  
受診機会を充実させる



# 広島県北部地域 移動診療車

曲がりくねった細い山道を移動し、冬は雪深い山間部の町に暮らす住民の方々。そこへ定期的に通う診療車と医療チームがいる。今日は医師と、同行した研修医にその様子を聞いてみる。

の結果が当日わかるんですよ。すごいじゃろー！」うちのお父さん、頭痛で診察に来た時に、先生が念の為にとその場で庄原赤十字病院の検査予約をとってくれたんですよ。それも翌日。とっても安心よね」「ちょっと心配なこと、も混んどの大きな病院ではためらうんじゃないけど、ここなら何でも話せるからね」「ご近所さんと会って話すいい機会にもなるとるんよね」

住民であり患者さんでもある町の人々の声は、一様に安心と好評の声ばかり。その話をする姿に、普段からこの診療車が町の人々へ安心を提供してきた軌跡を目の当たりにした。

「診療車の中ではできることが限

広島県には53か所の無医地区が存在することをご存知だろうか。それは、北海道に次ぐ全国第二位という位置だ。広島県では中山間地域への移動診療の充実を図ろうと様々な試みを実施。その一つが、今回訪ねた広島県北部地域移動診療車である。

県北部は降雪量が多い地域もあり、特に冬期の通院が難しい住民が多い。そのため「広島県新地域医療再生計画」に基づき、医療機器を搭載した診療車の運行を2012年から



開始。血液検査や腹部・心臓の超音波診断・心電図検査、エコーなどが受けられ、必要に応じて投薬や注射なども用意し、週2回、9地域を巡回している。

今回訪ねた帝釈福田集会所には、今日も町の人々が集まって、和気あいあいと診療の順番を待っている。

「薬をもらうためだけにでかけるのは大変だったけれど、とても助かると言います。これからの医師には、こうした暮らしに寄り添った医療の姿が見られる良い機会にもなると思います」と、この診療車で一年ほどこちらへ通う山崎先生。へき地医療拠点病院の一つであり内科が細分化されていない庄原赤十字病院を研修先に選び、専門医としてばかりではなく、患者さんを総合的にも診られるよう努力しているという。



医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務職員各1名に加え、研修医など医療チームが万全の体制で到着。予約から検査、診療、薬の処方、会計まで全て集会所内でできるシステムだ。



- 1 診察台
- 2 生化学自動分析装置
- 3 自動血球数CRP測定装置
- 4 吸引器
- 5 心電図
- 6 生体情報モニタ
- 7 超音波診断装置
- 8 与薬カート

られたり、毎回担当している薬剤師さんと連携を取ったり、通常診療とは違う環境で地域医療の実情を体感しています。これからの医師には、こうした暮らしに寄り添った医療の姿が見られる良い機会にもなると思います」と、この診療車で一年ほどこちらへ通う山崎先生。へき地医療拠点病院の一つであり内科が細分化されていない庄原赤十字病院を研修先に選び、専門医としてばかりではなく、患者さんを総合的にも診られるよう努力しているという。

「学生時代に地域医療研修で訪れた庄原赤十字病院で、このバスを作るといふ計画を聞いていました。だから、今日は実際に診療に来られて嬉しい！」

と、初めて移動診療車の研修を受けた井上先生。患者さんの住む地域に来ることで、その暮らしぶりを想像しながら今日は診療できたという。

「私は庄原のような過疎地域で育ちましたが、特に医学生は、教育環境が整った都会に暮らして来た人も多いはず。早いうちに、医療環境が厳しい地域を体感すれば、将来を考える良いきっかけになるでしょう」

この移動診療車は、住民にはかけがえのない安心を、若手医師たちにはこれからの医療を考える素晴らしい機会を運んでいる。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

## 広島県北部地域移動診療車

広島県健康福祉局医療政策課  
TEL. 082-513-3065

## 運営に携わる、へき地医療拠点病院

- 市立三次中央病院
- 庄原赤十字病院
- 神石高原町立病院  
及び関係市町

■事務局(庄原赤十字病院)  
〒727-0013 広島県庄原市西本町2丁目7-10  
TEL. 0824-72-3111 FAX. 0824-72-3576

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX